

2月26日(木) Bond University、Gold Coast Hospital

報告：野崎途也

7:20 Marque hotel ロビーに集合、Roma street 駅へ移動

7:50 City train に乗車し、Nerang 駅に移動

9:40 葛西教授、Bond 大学公衆衛生学 Jenny 教授と合流

10:35 The Gold Coast Hospital に到着。

同オフィスで病院の概要についてのレクチャーを受ける

11:00 同病院 CCU 病棟見学

病棟業務について。病棟業務は基本的には研修医が担当する。

上級医は緊急時のみ対応する。

朝に研修医・上級医で回診を行い、朝カンファで治療方針を決定する。

11:40 同病院リハビリ病棟見学

日本と比較して、患者一人に対する病室やリハ室が広く、患者は自炊をすることができ、病室備え付けのテレビのリモコンを用いて買い物ができるなど、患者の行動における自由度が高いと感じられた。また、OT などのコメディカルスタッフにおける裁量の大きさも日本より大きいようであった。

12:25 Bond 大学に移動し、大学内のレストラン(University club)で、同大学の先生方との会食。

13:30 Bond 大学発

14:00 The Gold Coast Hospital Emergency Centre

センター入口にはトリアージを行う旨についての説明と、スタッフに対して暴力・犯罪行為があった場合、いかなる情状酌量もせずに警察や警備に引き渡すという通告が掲示してあった。同センターの Rick Kenworthy 先生に、同施設内の説明をしていただいた。

医師や学生は4交代制で配置してあること、case report や学生の講義スケジュール、症例問題などはインターネット上のサイトに一括管理されていることなどが特徴的であった。



【オーストラリア見学でお世話になった Jennifer Doust 教授】



【センター入口の掲示】



【Gold Coast Hospital 見学】

14:50 Bond 大学健康科学・医学部に戻り、講義室見学

15:10 医学部学生に対する内科診断学講義見学

これは通常の系統講義とは異なり、BSL を行っている学生のうち少数 (今回は 18 名であった) の学生に対して、臨床経験をふまえた上での診断学講義ということであった。

講義内容としては、講師が用意した「呼吸困難」「発熱」などの主訴による case report を学生が読み、そこから鑑別疾患を挙げ、必要な検査を考えるという方法を用いて進んでいった。半数程度の学生は自分から意見を述べ、その妥当性について講師が答える、というやりとりで進んでいった。発言しない学生、的外れな発言をする学生などもあるが、インタラクティブにすすんでいく授業は、日本とは異なっていた。



16:40 白田さんによるプレゼンテーション

【Bond 大学 4 年生の講義】

講義終了後、受講していた学生を相手に白田さんによる「腰痛」をテーマにしたプレゼンテーションを行った。

17:00 プレゼンテーション終了。

午前中より同行して下さっていた医学部生アンさんのご厚意により、彼女の家でホームパーティーを行うこととなった。アンさんとルームシェアをしている同大学学生の前口さん姉妹が車出しの協力をしてくださり、Gold coast 市内のスーパーに買い出しへ行き、食物や飲み物、日本へのおみやげなどを買うことができた。その後アンさんの家でパーティーを行った。アンさんは日本生まれ日本育ちのインド人であり、インド人と結婚しオーストラリアに移住、子供をもうけたが、子供が網膜芽細胞腫であったことをきっかけに医師を志し、Bond 大学医学部に一期生として入学し、現在 5 年生とのことだった。同大学では OSCE に非常に力を入れており、数週間にわたり綿密で厳密な試験を受け、再試験などがあつたものの、数人が合格できずに留年したとのことであった。その他、日本と異なる進学・カリキュラム・免許取得・専門選択システムについて話を伺った。



【白田さんのプレゼンテーション (隣りは石川先生)】



【アンさんとの記念撮影】